

## 第1回 多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会 要点記録

- 1 日時：平成29年3月29日（水）午前9時から午前10時30分
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員： 浜田委員長、保坂副委員長、松尾委員、市村委員、松井委員
- 4 議事：市制施行50周年記念誌の編集基本方針の概要について

### 1 開会

事務局 第1回目の多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会を開催する。進行については、委員長が決定するまで事務局が行う。  
資料配布の確認を行う。

### 2 委員紹介

事務局 次に委員紹介に移りたい。

各委員から自己紹介が行われた。

次に、職員の紹介を行う。

初めに企画政策部長より挨拶を行う。

企画政策部長 多摩市は、平成33年11月1日に市制施行50周年を迎え、その50年という記念の節目を全市をあげて祝いたいと考えており、その1事業として、多摩市が歩んできた50年の道筋を明らかにし市民の財産となるような記念誌を作成したい。是非皆さんの日頃の経験から、様々なご意見をいただければと思う。事務局も皆様と力を合わせて委員会が円滑に進行できるよう努めるので、ご協力いただけるようお願いしたい。

### 3 委員長及び副委員長の選任

事務局 次に、委員長、副委員長の選任に移りたい。どなたか自薦、他薦はあるか。

委員 事務局で推薦したい委員はいるか。いないのであれば、経験が豊富な浜田委員を推薦したい。

事務局 浜田委員が推薦されたが、ほかに意見ある方はいるか。

委員全員の賛成により、浜田委員を委員長に選任した。

副委員長はいかがか。

委員長 多摩地域全土の歴史に知見のある保坂委員はいかがか。

委員全員の賛成により、保坂委員を委員長に選任した。

事務局 委員長、副委員長から就任にあたって一言お願いしたい。

委員長 50周年という記念すべき節目にふさわしい記念誌が制作できるよう皆さんからいろいろな意見をいただきながら、検討し、決定していけたらと思う。  
よろしくお願いしたい。

副委員長 今までの歴史をうまくまとめながら、施行50周年の多摩市の歩みを表現できたらと思う。よろしくお願いしたい。

### 4 会議運営に関する事項の確認について

委員長 まず、会議運営に関する事項の確認について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 会議運営に関する事項の確認について説明する。

資料3に基づいて説明を行った。

委員長 事務局の提案に対し、意見、質問等はあるか。

## 5 多摩市市制施行50周年記念事業について

委員長 本日は、初日ということもあり、市側の意見を聞きながら進めたいと思う。まず、多摩市市制50周年記念事業について説明をお願いしたい。

事務局 参考資料1及び2に基づいて説明を行った。

委員長 何か、ご意見等はあるか。

副委員長 過去の周年事業の結果の成果を出すべきだと思う。

10周年事業で制作した16ミリフィルムは制作から40年が経ちすでに貴重な文化財となっていると思う。

委員長 10周年、20周年と記念誌を刊行しているが、それ以降は刊行していないので、30年ぶりの記念誌となる。この30年の変遷は大きく、資料作成には時間を要するので、記念誌事業を先行して取り組んだことは良いことだと思う。

## 6 多摩市市制施行50周年記念誌作成の概要について

事務局 資料4及び参考資料1に基づいて説明を行った。

委員長 何か、ご意見等はあるか。

記念誌を作成するうえでは、基本となる多摩市史の内容は重要である。多摩市史の説明をお願いしたい。

教育部副参事 多摩市史は、およそ10年をかけ平成9年に刊行した。内容については、多摩市に人類が現れた以降について掲載している。骨格となるのが通史編で、その他に資料編がある。また、図や票表を載せている図録版で構成されている。

参考として、多摩市史の実物を紹介した。

委員長 市史をベースに記念誌作成を考えていくのは良いと思う。

委員 資料4の、記念誌の構成で、A4サイズ、200ページとあるが、どのくらいの厚さになるのか。

委員長 紙の厚さや素材によって異なる。

参考として、国分寺市の記念誌A4サイズ、150ページ及び相模原市の記念誌A4サイズ、300ページを紹介した。

市史は専門的な内容で文字も多く、読みやすさはないと思う。フルカラーで写真や図を多く取り入れたビジュアルを重視したものが良いと思う。

またCDやDVDで映像化するのもよい。

内容については、旧石器時代からまとめて掲載するのも良いと思うが、市制施行からの50年に絞るのも良いと思う。

何にスポットをあてるかによって、今後の編集に大きく影響してくると思うので、ここでしっかりと決めておいたほうがよい。

委員 文字は、なるべく大きいほうが、どんな方にとっても読みやすく良いと思う。

副委員長 多摩市史は、時間をかけて作られており、内容も充実していると思う。ただ、市民に市史を配布しても読まないと思う。

例えば、子どもでも読めるようなダイジェスト版を作成するのも良い。

複数編成になってしまうかもしれないが、市史のような歴史の内容を取り入れつつ、市制施行以降の50年を書くと良いと思う。

委員長 相模原市の市史刊行に携わっており、平成30年全巻刊行となる。1巻目は市民の方に目にしたいという思いから、図録版を刊行した。図録版は見開きに4、5枚の写真や図を掲載し、400文字程度の説明を記載した。

委員 多摩市の記念誌が、多摩市史の継承なのであれば、学術的な内容でも良いと思う。多摩市史の編さんから20年が経つが、次回の市史刊行は期間から考えて少し先なのだと思うので、そのつなぎとして記念誌を作成するのは良いと思う。

資料等の収集は、市民の方に協力していただくことになるから、地域に根差した内容とするのが良いと思う。

内容が硬い市史ではなく、読みやすく、わかりやすく、また多くの人に興味を持ってもらえるような、市史とは違った視線の刊行物になると良いと思う。

また、他紙の記念誌も参考にしながら考えていくと良いと思う。

委員長 次につなげていけるような内容という意見が出た。

市史刊行から20年が経っており、新たな資料収集の必要がある。ビジュアル重視の記念誌を作成することになると膨大な写真が必要になってくるが、古写真は保存されているか。

教育部副参事 教育振興課の文化財担当で、市史に掲載した資料はすべてデータ化し、保存してある。

多摩市文化振興財団にも保存してある。

委員長 分量としては、かなりの量が保存されているか。

教育部副参事 3000枚～4000枚はある。

委員 他には、広報課が様々な写真を保有している場合がある。他市では、撮った写真をデータ化して各部署で保管している場合があるので、多くの写真が各部署から出てくると思う。

教育部副参事 市史編さん時に広報課の写真も教育振興課が引き継いだので持っている。

また、変貌する多摩というテーマで動画も撮っており、16ミリフィルムで保存してある。

委員長 例えば、羽村市では、市史編さん時に全庁調査を行い、その時収集した写真をデータ化した。また、市が持っている写真は、市民の生活を映したものが少ないので、市民に公募した。市民参加にもなり良いと感じた。

委員 内容としては、市史の内容を確認しながらの編集が望ましいと思う。

多摩市の市史刊行に携わったが、市史刊行以降の資料の保存状態についての不安があるためもう一度確認が必要である。

委員長 市史刊行以降の資料の保存がどうなっているか。

教育部副参事 デジタル化に至っていない部分もあるが、全資料をデータベース化した。

委員長 資料や写真のデータの収集、各記念誌の内容など、事務局と、準備委員会とそれぞれの課題ややるべきことが見えてきたと思う。

資料4の編集基本方針で「平易な記述」と記載があるが、平易というのは、認識が難しいと思うが、例えば、子どもが理解できる内容というのはどのようなものか。

専門的な資料集等の場合、かなが振ってあるだけで、小学生では理解しがたい内容であることもある。

事務局 教育での資料として活用してもらえそうな内容を想定している。

副委員長 冊子体の記念誌を作成予定か。

電子書籍の作成も考えると、タブレットで手軽に読むことができるし間口が広がると思う。また電子だと、野鳥や自然の音声を盛り込むことができ、動画資料も可能になる。検討する必要はあるが、電子版の発行は良いと思う。

企画政策部長 配布する対象によって、記念誌の構成や方針等は変わってくるのかお聞きしたい。

委員長 市史の場合だと、市内の小中高大学に配布し、後は販売するというのが、一般的だが、記念誌となると全戸配布となるのか。全戸配布だと、歴史も盛り込みつつわかりやすく楽しい内容にする必要がある。

20周年記念誌のときは、全戸配布したのか。

企画政策部長 20周年記念誌については、全戸配布した。しかし、内容はどうしても好き嫌いが分かれるので、処分されてしまった家庭も多い。

50周年記念誌については、販売を考えている。

委員長 相模原市の50周年記念のときは、広報課より全戸配布の記念誌を刊行した。

市史については販売した。別けても良いかもしれない。

編集に関しては、まず写真の収集から始めるのが良いと思う。

## 7 閉会

事務局 次回第2回多摩市市制施行50周年記念誌作成準備委員会については、5月を予定している。委員の皆様には改めて日程調整の依頼を連絡する。